

教育行政執行方針



教育長 星 護

平成22年第1回和寒町議会定例会の開催にあたり、和寒町教育委員会所管の教育行政執行方針について申し上げます。

今日の社会を取り巻く環境は、国際化、情報化がより一層進展するとともに、少子高齢化の進行、そして政権交代による様々な社会構造の変化は、私たちの暮らしの中にも少なからず影響を及ぼしておりますが、その中にあります。郷土「和寒」に暮らす町民一人ひとりが真に「健康で生きがいのある明るく人間性豊かな生活」を営み、ゆとりと潤いのある「心の充実」を実感し、創造的で活力のある生涯学習社会を築いていく

ことが求められております。

教育委員会といたしましては、どのような時代におきましても、未来を託す子どもたちの、健やかな成長を育むことは、大変重要なことであります。ことから、恵まれた自然環境や地域の特性を最大限に活かしながら、確かな学力の育成と豊かな人間性を育むために、学校はもとより地域全体で子育て支援や子ども教育に取り組むことが大切であると考えております。

また、少子高齢化が一段と加速すると同時に、人口の流出に歯止めがかからない中にあることも、町民の一人ひとりが生涯を通して個性や能力を伸ばし、健康で充実した生活を送ることができるよう、学校・家庭・地域の連携を強化し、学校教育・社会教育・社会体育の振興により、「創造性豊かに、未来を切り拓き、たくましく生きる力」を育むために、多様な学習の形成や、教育機能の充実、振興を図るとともに、教育環境の整備に努めながら、今年度の教育行政を推進して参ります。

学校教育

学校教育の推進

次代を担う児童・生徒一人ひとりが、自ら考え学ぶ主体的態度や創造性を育むとともに、命の大切さ、思いやりや感謝の心を養うなど、確かな学力を身につけ、豊かな心を育み、健やかでたくましい心身の発育を目指して参ります。

確かな学力の定着

1点目の、確かな学力を身につけるためには、基礎的・基本的な知識、技能の習得や学習に対する意欲や関心を高め、これらを活用する思考力、判断力、表現力を育むことが課題であります。

これまで実施されてきました全国学力・学習状況調査の内容を検証し、改善プランに基づき教職員の資質の向上を図るために、町教育研究会や校内研究会の積極的な推進により、全教職員共通理解に立つて、児童、生徒一人ひとりに対し、わかる喜びが実感できる授業、自ら進んで学ぶ意欲を持たせる授業の実現に努めて参ります。

豊かな心の育成

2点目の、豊かな心を育むためには、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めることが大切であり、読書活動を通

して身につくものも大きいと考えておりますことから、全校一斉朝読書の推進や、町立図書館の積極的な活用を図って参ります。

また、道徳教育や体験学習を通して社会のモラルや規範意識の向上を図るとともに、学校、家庭、地域の連携した取組により、公共心や他人を思いやる心の育成に努めて参ります。



健やかでたくましい心身の育成

3点目の、健やかでたくましい心身の育成につきましては、少子化やコンピュータ機器の導入などにより、全国的に一日の運動量は減少し児童、生徒の体力は徐々に落ちており、体力の低下は学力の低下にも繋がっているとされており、学校が保

わりによって、継続したスポーツ活動が実践されるよう取り組んで参ります。また、心と体を鍛える基となる「食育」の重要性を認識し、発達段階に応じた食に関する学習や、家庭と連携した望ましい食習慣の充実に努めて参ります。



教育環境の整備

第1に、学校は、常に安心・安全で信頼される学校でなければなりません。そのため基本となるのが学校評価と情報公開であり、父母や地域の理解と協力により成り立つものであると考えております。学校は内部評価、保護者等のアンケート調査による外部評価、学校評議員制度の活用により学校運営等の改善に努めており、教育活動や学校経営の積極的な情報公開に努めて参ります。学校が保護者や



社会に対して積極的に説明責任を果たすことが相互理解と信頼に繋がり、保護者や地域住民の学校運営への参画を促進し、地域に支えられた開かれた学校運営を図って参ります。

第2に、小中学校の連携についてであります。小中学校が連携した教育の推進につきましては、既に、「和寒町小中学校連携スクラム協議会」が設置され、9年間の見通しに立つた義務教育の充実を目指し、「生きる力」を育み、「豊かな人間性を育てる」とを基本理念に連携が図られており、一昨年から、児童生徒が一体となったボランティア活動に加え、中学校教師による小学校への出前授業を実施するなど、大きな成果を挙げてきておりますが、より一層の充実を図るために必要な支援をして参ります。

第3に、特別支援教育についてであります。支援を必要とする児童生徒に対して、一人ひとりの状態に応じた教育実践のため、和寒町特別支援教育連携協議会を中心に、実態の把握や、支援方策の検討、個別の指導計画の作成に取り組むなど、適切な情報の交換を行い、児童生徒の自立と社会参加を目指した教育の充実を図って参ります。

また、小学校では今年度新たに19名の新1年生が入学されますが、1年生にとつては学校生活に不慣れなため、日常生活の不安払拭や、学級経営が不安定に陥ることのないよう、引き続き、特別支援教育支援員を配置し、楽しく、より良い学校生活が送れるよう、体制づくりをして参ります。

第4に、外国語指導助手派遣事業につきましては、英語学習が小学5年生からの必須となることに対しても大きな成果が得られると同時に、児童生徒が直接英語に触れ親しみ、自然体で習得する楽しさを持ちながら学んでいくことが大切でありますので、引き続き、幌加内町と連携し、本事業を継続して参ります。

第5に、心の教室相談員についてであります。平成10年度から中学校に配置しており



ました心の教室相談員につきましては、ここ数年の状況から相談の実態がなく、相談員や学校側から一旦事業休止の声があり、教育委員会議でも議論を重ねた結果、教師と生徒のきめ細かな信頼関係を築き、家庭・生徒・教師の絆をより一層深めることに力点を置いて、解決を図っていく事としました。

また、学校以外でも相談できる体制を構築したく、早急に検討して参ります。

第6に、学校給食と食育についてであります。学校給食につきましては、食材をはじめ衛生管理や、安全で安心な給食の提供に努められるよう、土別市学校給食センターと十分連携を図って参ります。

食育につきましては、児童生徒の心と体の健全な発育に

は、望ましい食生活を身につけることが不可欠でありますので、学校給食センターからの栄養教諭の派遣を受け、児童の食に対する理解を深めるとともに、バランスの取れた食生活を実践するためには、保護者の理解と協力が大切でありますので、積極的に情報を提供しながら、学校と保護者、学校給食センターが連携し、食育の推進に努めて参ります。

第7に、学校支援地域本部事業につきましては、地域のボランティアが、学校の様々な活動を支援することにより、教師が子どもたち一人ひとりと向き合う時間の確保を目的に、和寒町学校支援実行委員会を設置し、現在70数名の方にボランティア登録をいただき、学校の求めに応じて本事業を推進しているところ



であります。学校と地域ボランティアの相互の理解を大切にし、多くの地域の皆さまに支えられながら学校支援地域本部事業の充実が図れるよう、努めて参ります。

教育施設の整備

町長の執行方針でも述べられておりましたが、平成20年度から進めて参りました和寒小学校改築事業も3年目を迎え、残っております外構工事の整備は、最終年となり平成21年度の国の第2次補正事業で予算措置がなされましたことから、新年度早々に着手することが出来、校舎、体育館の周囲全ての整備が終わることになります。

これまで本事業に携わっていただきました、議会の「和寒小学校改築調査特別委員会」の皆さま、教師や父母の





「和寒小学校改築懇話会」の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまに、心からお礼申し上げますとともに、深く感謝申し上げます。

今後は、施設の持つ教育機能を有効に活用し、学年やクラスの垣根を越えた交流事業が展開されるよう、十分配慮して参ります。

和寒中学校移転

和寒中学校の和寒高等学校跡地への移転につきましては、道教育委員会の屋根、外壁改修塗装等工事が内定しており、その完成後に和寒町への施設譲渡となり、その時期は12月初旬の予定であり、中学校の移転作業は、2学期の終了時として進めているところであります。

中学校として使用するための内部改修等につきまして

は、実際に使用する先生方の意見や要望を取りまとめ、実設計を進め、文部科学省の大規模改修事業交付金の申請をしているところでありますが、文部科学省では、全国的に耐震化事業の申請が多く、大規模改修に対する補助は大変厳しい状況にあるとの情報から、現時点での予算措置は大変難しく、ある程度財源の方向性が出た段階で予算措置をし、施設の譲渡までには事業が完成するよう進めて参ります。

改修工事以外に係る備品や、移転等の予算につきましては、内容を十分詰めながら、今後、補正で措置して参ります。

中学校跡地活用

移転後の中学校跡地活用については、広く町民の皆さま



のご意見や情報を頂き、有効活用について検討したく、新年度早々に「和寒中学校跡地活用検討委員会」を設置し、進めて参ります。

札幌自由が丘学園三和高等学校

和寒町が認可しました、株式会社札幌自由が丘学園三和高等学校は、開校2年目を迎えますが、1年目の今年は、夏と冬の2回、和寒の自然や行事をスクーリングのフィールドとして十分に活用され、大きな成果を収めているとのご報告も頂き大変喜ばしく思っているところであります。

2月19日には、札幌自由が丘学園三和高等学校運営評議委員会が発足に向けた検討会議が行なわれ、学校の適切な運営の基本方向も検討されま

したので、札幌自由が丘学園三和高等学校の更なる発展に期待しますとともに、今後とも積極的に協力をして参ります。

社会教育

社会教育の推進

社会教育の推進につきましては、第6次和寒町社会教育中期振興計画の最終年度を迎えることから、この5年間の推進状況を検証し、反省と評価を行い、しっかりと課題を掘り起こし、町総合計画と整合性を図りながら第7次中期振興計画の策定に取り組んで参りたく、関係予算を計上しております。

社会教育は、町民が余暇を活用し生涯にわたって自己の知識を高め、豊かな心を育み、健康の維持増進や生活文化の向上、社会福祉の増進を図るため、良質な情報の提供や、学習環境の整備充実が求められております。

公民館

生涯学習活動の拠点として公民館の果たす役割はより大きなものになり、その責務の重大さを認識し、家庭や学校、自治会や関係団体・機関と連携しながら、町民の皆さんが必要としている各種講座

の開催や、芸術文化公演会の開催、地域の求めに応じた学習環境の提供に意を用いて参ります。

なお、5月21日(金曜日)には、札幌交響楽団創立50周年記念事業として、フルメンバー60数名による「札幌交響楽団和寒ジュニアクラシック」コンサートが総合体育館を会場に無料で開催されることになりました。また、11月21日(曜日)には、公益財団法人三井住友海上文化財団主催の「地域住民のためのコンサート」として、NHK交響楽団トップメンバーによります室内楽団の公演会が公民館恵み野ホールで開催することが決定しており、児童生徒や町民の皆さんに喜んでもらえるよう準備に万全を期して参ります。



恵み野ホール自主企画事業につきましても、町民の皆さんの芸術・文化に親しむ機会の充実のため、芸術文化公演実行委員会と連携を図り、事業を展開して参ります。併せて、地域に根ざした芸術・文化活動の推進のため、文化団体連絡協議会や関係機関と連携を密にしながら、振興発展に努めて参ります。

未来を拓く人づくり

新たな人づくり事業として、和寒町の未来の町づくりを担う児童・生徒を対象に、道外や海外での研修をはじめ、国際交流事業などに積極的に参加を促し、必要な経費の一部を助成する「和寒町未来を拓く人づくり推進事業」を展開し、子供たちの広い見識と豊かな感性や国際感覚を育み、地域の振興と活性化を図って参ります。

図書館

図書館につきましても、町民の皆さんの生涯学習拠点施設として大きな役割を持っており、図書資料の整備充実を図っているところであります。蔵書数では現在8万2千冊の規模となっており、町民の方々の世代層に沿った学習意欲を支援するべく、図書資料の計画的導入や新しい情報収集に努め、町の広報誌を活用しながら新刊図書を紹介



や、自主企画事業の案内、学習情報などを掲載し、町民の皆さまが親しみをもって気軽に図書館を利用できるように運営に努めて参ります。

北原交流展示館

北原交流展示館は、オープン以来4年を経過しましたが、これまで和寒町にゆかりのある方々や、町内に居住する専門的芸術を有する方、各種サークルで技術を磨いてい



る町民の皆さんの作品など、多くのボランティアに支えられながら作品を展示し、町内外から足を運んでいただいております。関係の方々には深く感謝申し上げる次第であります。今後におきましても、これまでの流れを継承しながら、関係機関や各種団体等のご意見やご要望等をお伺いしアイデアを凝らし、企画力を高め、生涯学習の重要な役割を持つ施設として位置づけ、内外から親しまれる展示館づくりを目指して参ります。

スポーツ振興

スポーツの推進

スポーツの推進につきましては、町民一人ひとりが心身ともに健康で豊かな生活を育むことが大切であり、そのためには、生涯を通して「いつでも、どこでも、だれでも」がスポーツに親しみ継続されることが重要であり、昭和58年に宣言した「スポーツの町」に相応しいスポーツ環境の整備充実を図って参ります。

継続したスポーツ活動を展開するために、体育協会や関係団体と連携を図りながら、各種スポーツ教室の開催や、スポーツ指導者の育成を図つ

て参ります。また、世代間を超え、子どもから高齢まで若男女が日常的なスポーツ活動を通して交流を図り、誰もが気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツの実現を目指し、日本スポーツ振興センターの助成を受けながら、総合型地域スポーツクラブ創設に向けた準備を進めて参ります。

各種体育施設

スポーツの振興に大きな役割を担う各種体育施設は、指定管理者制度へ移行し2年を経過しますが、大きな事故もなく利用者へのサービスの向上が図られており、指定管理者役職員の皆さまのご努力に感謝申し上げます。3年契約の最終年次を迎えることから、業務内容を検証し、更に利用者に喜ばれ



る施設としての機能の充実を図っていけるよう、指定管理者とともに努力してまいります。

責任体制の充実

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価」を行うことが規定され、教育委員会がより高い使命感を持って責任を果たしていくことが求められており、試行といたしまして、平成20年度の報告書を昨年11月に町議会に提出したところでありましたが、本年度からは試行結果を踏まえ、事務の管理及び執行状況について点検評価を行い、その結果を町議会に報告させていただき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たして参ります。

教育関係の主な事業

事務局費 27,696千円

- ★教育特区学校審議会委員報酬
- ★外国語指導助手招致事業
- 中学校跡地利用検討委員報償【新規】**
- ★高校生徒通学費補助
- ★臨時バス・スクールバス運行業務委託

小学校費・中学校費 14,281千円

- ★小学校1年生入学祝い品贈呈
- ★小学校特別支援員配置
- ★学校管理委託事業
- ★教材備品整備（パソコン借上・教材備品）
- ★教育研究関係補助
（教育研究会補助・校内研究活動補助・総合的学習補助）
- ★中体連生徒派遣補助

社会教育総務費・公民館費・図書館費 20,627千円

- ★生涯学習推進事業
（公民館講座、青少年育成、女性他研修、高齢者研修、その他学習支援、**第7次和寒町社会教育中期振興計画作成【新規】**）

小学校外構整備事業【新規】、地域体育館整備事業【新規】は、平成21年度繰越明許費として計上し、平成22年度に実施となります。

和寒町未来を拓く人づくり推進事業【新規】

- ★文化活動推進事業
（恵み野ホール活用事業、NHK交響楽団公演【新規】、片栗庵活用、文化活動等支援、よさこいソーラン祭り北・北海道支部大会inわっさむ補助【新規】、北原交流展示館運営）
- ★図書館運営事業
（図書・視聴覚資料整備、読書普及促進）

保健体育費 74,325千円

- ★スポーツ振興推進事業
（体育指導員活動費、スポーツ教室事業、指導者育成事業、各種社会体育事業負担金、各種競技大会出場補助、体育協会補助、**総合型地域スポーツクラブ推進事業【新規】**、**B & G海洋センター外壁他改修事業【新規】**、スポーツ振興指導者養成事業、スポーツ施設管理事業）

学校給食費 25,270千円

- ★給食センター運営他負担金

平成22年度 町内教職員人事異動

（敬称略）

		よろしく申し上げます			お世話になりました		
学校名	職名	氏名	前任校	職名	氏名	転出校	
和寒小	校長	原 啓子	名寄市立名寄西小学校	校長	福井 幹則	定年退職	
	教諭	上村 純一	旭川市立永山南小学校	教諭	平田 考寿	東神楽町立東聖小学校	
	養護教諭	鶴岡 有貴	愛別町立愛山小学校	養護教諭	田中 裕子	旭川市立北鎮小学校	
和寒中	教諭	神林 明恵	富良野市立樹海中学校	教諭	澤田 歩	旭川市立聖園中学校	
和寒高		校長	小越 康雄	七飯高等学校			
		教頭	桂 玲子	退職			
		事務長	川岸 俊之	赤平高等学校			
		教諭	徳永 仁	旭川西高等学校			
		教諭	漆山 裕章	旭川商業高等学校			
		教諭	澤崎 真也	旭川東栄高等学校			
		教諭	小玉 昌宏	上富良野高等学校			
		教諭	根府 崇	旭川南高等学校			
		教諭	猪狩 真一	（再任用任期満了）			
		養護教諭	鈴木 裕子	旭川北高等学校			
		事務主任	土池 健吾	芦別高等学校			